

学年	教科等	単元名	日時
第1学年	算数科	おおきさくらべ(1) (第4時)	令和7年7月14日(月)

1 本時の目標

生活場面の問題について、これまでに学習した比べ方を用いて解決方法を見いだすことができる。

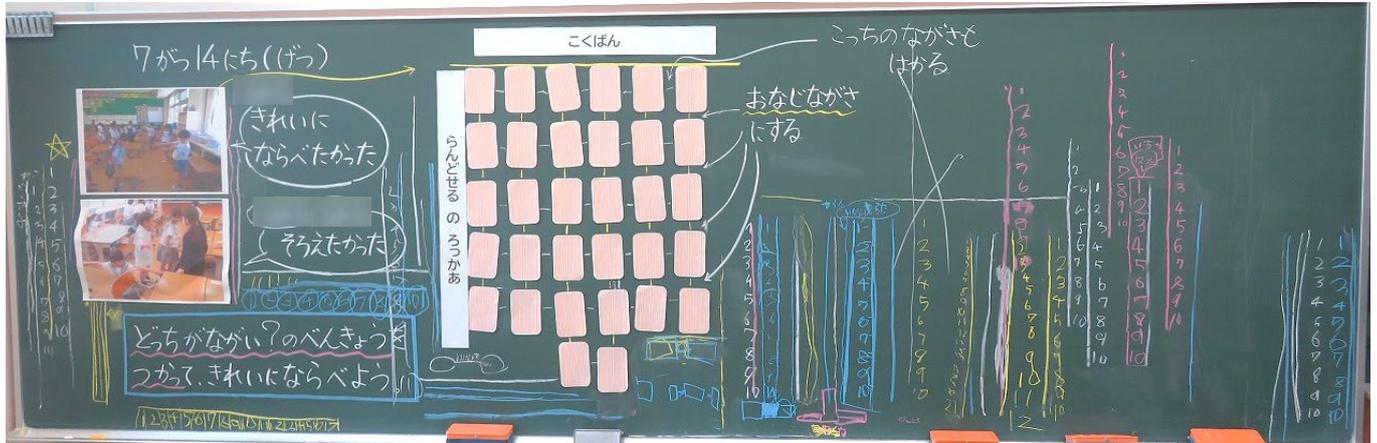
2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 生活場面の困り感を想起し、学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机と机の間の長さ <ul style="list-style-type: none"> ・「机がきれいに(ぴったり)揃わなかったよ。」 ・「手を広げてもうまくいかなかったな。」 ・「喧嘩をしたことがあるよ。」 ○ 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>これまでに学習した方法を使って、解決できるかな。</p> </div> <p>2 学習問題について考える。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 比べ方の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・「紙テープやひもが使いそうだよ。」 ○ 間接比較や任意単位による比較 <ul style="list-style-type: none"> ・「長さは、○○の何個分だね。」 ・「わたしは、鉛筆のいくつ分で考えてみたよ。」 ・「ぼくの筆箱だと、○個と半分くらいだよ。」 ・「マスの○個分だから線がなくても分かるよ。」 <p>3 問いをもつ。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 比べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆のいくつ分で考えたけど、机と机の長さをうまく測れないな。」 ・「ぼくが測った長さ、仲間が測った長さが違うよ。」 等 ○ 問い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>きれいに揃えるにはどうすればよいかな。</p> </div> <p>4 問いを解決する。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫した比べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆のいくつ分じゃなくて、紙テープで試してみよう。」 ・「ぼくの紙テープと、仲間の紙テープの長さが違うから、黒板で確かめてみよう。」 ・「縦の長さも揃えないといけないな。」 等 <p>5 本時学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 選択した比べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは、いくつ分で考えたよ。」 ・「わたしは紙テープを同じ長さに切ってみたら、きれいに測れたよ。」 ○ 算数の学習を適用することのよさ <ul style="list-style-type: none"> ・「これで机をきれいに並べることができるね。」 ・「きれいに(ぴったり)揃えるためには、縦と横を揃えればいいんだね。」 ・「班をつくる時も使いそうだよ。」 	<p>「自律的に学ぶ」ための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 机を窓側に向ける際に、机の列を揃えるような行動をしている子どもの様子を写真で提示することで、生活場面での困り感をふりかえり、本時の目的意識をもつことができるようにする。 ○ 写真を基に「きれいに(ぴったり)揃えたい」等、数学的な見方・考え方につながる思いを板書することで、揃えることは、縦と横の長さを揃えることと捉え直すことができるようにする。 ○ 机と机の間について、横の長さを指定し、直線で板書しておくことで、問題解決の過程において、黒板上の直線をふりかえり、正しい長さを確認しようにすることができるようにする。 ○ 左記のような、比べ方の違いから生まれたずれや困り感を教師が見取り、共有することで、問いをもつとともに、より正確な比べ方について、学習した比べ方をふりかえりながら考えることができるようにする。 ○ 第3時までの問題解決の過程で用いた様々な比べ方を掲示したり、具体物として用意したりしておくことで、これまで学習した比べ方を自らふりかえり、試そうとすることができるようにする。 ○ 本時の感想を記述させることで、算数の学習を生活場面に適用したことをふりかえる経験を積むことができるようにする。 ○ 本単元で学習した比べ方を用いて問題解決したことを価値付けることで、学習したことを生活場に適用することのよさを実感することができるようにする。

3 本時の評価規準

生活場面の問題について、直接比較、間接比較、任意単位による比較等のなかから比べ方を選択し、解決方法を見いだしている。
(思考・判断・表現)【行動観察・行動分析】

4 板書等



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 元田 正幸 指導主事

- 子どもたちがこれまでの学びをふりかえりながら、長さを比べたり、揃えたりしようとする姿は、学びが積み重なっているからこそ見える姿だと考える。子どもが数学的な見方・考え方を自覚するためには、本時までに見られた直接合わせる、別の物に置き換える等の比べ方について、一つ一つ言語化していく必要があった。
- 「自律的に学ぶ」ための3つの要素「動機付け・見通し」「遂行コントロール」「ふりかえり」は、1単位時間はもちろん、単元全体でも捉えるとよい。算数科では、単元導入の段階で問題解決した方法が、単元終末の段階にはより効率的になっていくことが多いため、効率的に処理することのよさだけに意識がいきがちである。そのため、単元終末の段階において、効率的な処理の基となった導入の段階での方法をふりかえることも大切である。そうすることで、何がきっかけとなって自分たちが学びに向かい始めたかということ、子どもが自覚することができる。その経験を積み重ねることで、学習内容を統合的・発展的に考えることができるようになると思う。
- 本時で身に付けた力が、変化が激しい時代を生き抜くために必要な「生きる力」とどのようなつながりがあるかを想定して授業を構想していくとよい。そのうえで仕掛けを考えていくと、単元をとおして育成したい資質・能力がより明確になるのではないかと。

6 考察

【研究内容1：数学的な見方・考え方を自らふりかえるための仕掛け】

本時では、生活場面で見取った数学的な見方・考え方につながる子どもの言動を基に、学習環境づくりを行った。具体的には、テストを受けるためにすべての机を窓側に向ける際、「きれいに(ぴったり)揃えたい。」「机と机の間の長さを同じにしたい。」という、測定についての見方・考え方につながる思いや願いを基に、学習問題を設定し、「おおきくらべ(1)」で学習した直接比較や間接比較、任意単位による比較から、比べ方を選択しながら問題解決する姿をねらったものである。

本時では、既習を自らふりかえり、比べ方を選択して問題解決に向かう姿が見られた。一方で、紙テープを定規に見立て、目盛りを書き込む姿や、一部の長さのみを揃え、全体に目を向けていない姿等、本時のねらいとは異なる姿も見られたことが課題として挙げられる。導入の段階で「きれいに(ぴったり)揃える」ということはどういうことか、十分に共有することができれば、「きれいに(ぴったり)揃える」という目的意識を常にふりかえりながら、よりよく問題解決に向かうことができたと思う。今回のように、生活場面を学習問題として取り上げることが、既習を自らふりかえり、数学的な見方・考え方を適用して問題解決することのよさや、算数のよさを実感することにつながるため、今後の研究においてもその在り方を模索していきたい。